



## 母親の養育態度に影響を及ぼす家族、夫婦関係に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-05-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 戸田, 須恵子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00004950">https://doi.org/10.32150/00004950</a>

## 母親の養育態度に影響を及ぼす家族，夫婦関係に関する研究

戸田 須恵子

北海道教育大学釧路校

### イントロダクション

母親の養育態度は，子どもの社会的行動に影響を与える要因として考えられている。又，母親の養育態度に影響を及ぼす要因として家族関係，あるいは夫婦関係が考えられる。母親の養育態度と子どもの社会的行動との関係については以前に報告した(戸田，1998，1999)。Baumrindの提唱した3つの養育態度，権威主義的，権威的，及び許容的養育態度(1966,1991)を使って幼児の社会的行動(向社会的行動，攻撃的行動，引っ込み思案行動)との関係を明らかにしてきた。その親の養育態度・行動に影響する要因として，本人の性格は勿論のこと，子どもの気質や母子関係，夫婦関係，家族の形態などが考えられる。親自身を取り巻く多くの事柄が直接的，間接的に母親へ影響を与え，それらが複雑に絡み合って，母親の養育態度を決定づけ，子どもの社会的行動へ影響を与え，それが又子どもの仲間関係へと影響する(Parke & Ladd, 1992)。では，このような直接的，間接的に影響を与える，家族，夫婦関係等は母親の養育態度とどのように関連し，子どもの行動にどのような影響を与えているのだろうか。

家族は一つの社会的集合体であり，家族とは「婚姻と血縁を基礎とし，夫婦を中心に，その近親者らと共に営まれる生活共同体」である(山根，1986)。このようにして考えると，一般に，多くの国々では乳幼児の社会性の発達には主に家族の中でなされると考えるのが妥当である。日本の家庭においては，子育ては，掃除，洗濯，料理などの手段的活動の一部として考えられてきたが，質的には全く異なるものであると山根は主張する(1986)。なぜならば，育児は家事と異なり，もっぱら人格形成にかかわる仕事だからである。しかし，日本社会では，結婚して家庭に入る女性は，専業主婦と呼ばれ，家事並びに子育て一切を引き受けていくのがこれまで多くの女性の辿ってきた道である。しかしながら，女性の社会への参加が増加している今日においては，それに伴って家庭や親子関係に対する価値観も変わりつつある。例えば，かつて権威を持っていた父親と子どもの関係では，友達のような関係を望む親子が増加してきている。このような社会の変遷に伴って家族に対する考え方も多様性を増してきている。当然，家族に対する考え方だけでなく，家庭そのもののあり方，家庭内の仕事分担に対する意識も変化していることが推察できる。子どもを育てるということは，又，子どもを社会化していることであり，当然，子どもの発達への影響要因として，家族や夫婦関係，あるいは他の家族成員との相互作用，その子どもを取り巻くきょうだい，祖父母，親類縁者等が直接的，間接的に影響している事が考えられる。家族成員が相互にどのような関係を持っているのか，凝集性，適応性はどうかといった事柄によって子どもの行動は異なる。凝集性の強い家庭で育った子どもには問題行動も殆ど見られないといった報告もある(Smets & Hartup, 1988)。本研究の家族についての質問紙は，Bloom(1994)の研究が基礎になっているが，彼は家族形態について因子分析で多くの因子を抽出している。そのような結果は，家族の複雑さを示すと同時に，個人差が大きい事を示唆している。

又，家族の中心となる夫婦関係の善し悪しは，特に年少児の外的問題行動(反社会的行動，非行，攻撃行動)，あるいは内的問題行動(引っ込み思案や不安)と関係がある事が知られている(Katz & Gottman, 1993;

Porter & O'Leary, 1980). さらに、離婚といった問題においても子どもの影響は大きい。Hetherington, Cox, & Cox (1979) は、離婚家庭の子どもの影響について2年間に渡って研究した結果、特に男児においては、仲間関係においてすすんで敵対行動や攻撃的行動を示したり、仲間から仲間外れにされるといった現象が見られた事を報告している。さらに、結婚がうまくいっていない親の子どもは、学校で喧嘩をするといった外的問題行動と関係があったという報告もある (Bryant & DeMorris, 1992)。このような夫婦関係と子どもの社会的行動との関係は、親の養育態度や夫婦関係のストレスなどから派生する親の態度・行動を子どもは学習し、学校でその行動を実行するといったプロセスが考えられる。家族がどのような家族であるかは、その中で生活する人々の考え方、行動に影響する。それは又、子どもの学校への適応に影響する。

Belsky は、親の養育態度・行動に影響を与える変数として子どもの気質や夫婦関係、ソーシャルネットワーク、親自身の性格特性、仕事関係を考え、Process Model を提唱している (1984)。又、Hart, Olsen, Robinson, Mandlco は、同様に Conceptual Model を提唱している。どちらも相関に基づいた仮定モデルである。両者のモデルから考えると、親の態度、行動 (Parenting) と関係づけている変数として、子どもの気質や親の性格、家族の機能、夫婦関係を直接的要因として挙げている。そこで、本研究ではモデルの一部を検証するために、母親の養育態度との関係に焦点を当て、次の事柄について検討する事を目的とする。

- 1) 親の養育態度とそれに影響すると考えられる家族との関係を明らかにする。
  - 2) 家族と夫婦関係についてその関係を明らかにする。
  - 3) 母親が父親の養育態度をどう見ているか、あるいは、家庭内の仕事の役割分担などについて検討する。
- 先行研究から、権威的養育態度を示す母親は家族や夫婦関係を肯定的に捉え、権威主義的養育態度を示す母親は、家族や夫婦関係を否定的に捉えるであろう事が予測される。

## 方 法

被験者：釧路市内の幼稚園に通う4歳以上の子どもを持つ両親に研究への参加を求め、承諾した親にアンケートを配布した。11幼稚園に通う幼児の母親214名 (男児101名、女児113名) から回答が得られた。幼児の年齢は66ヶ月 (範囲39-81ヶ月) であった。母親の年齢は、平均34.1歳で、教育年数は12.6年であった。母親の88%は専業主婦であった。きょうだいについては、一人っ子53人、二人きょうだい109人、3人きょうだい43人、4人きょうだい9人であった。

手続き：質問紙は、幼稚園児を通して、あるいは直接母親へ手渡された。母親へは、多くの質問に答えてもらった為、質問紙を2回に分けて配布した。その間の期間は2週間であった。

質問紙：本研究で利用した質問紙は次の4種類である。

- 1) 母親の養育態度に関する質問紙は、62項目からなり、1“全くそうではない”から5“いつもそうである”の5段階評定で回答するようになっている。又、回答は、母親自身の自己評価と父親の養育態度を評価するようになっている。
- 2) 家族機能に関する質問紙は38項目からなり、1“私の家族については全くそうでない”から“私の家族については全くそのとおりである”の4段階評定で回答するようになっている。
- 3) 夫婦関係に関する質問紙は、3種類に分けられ、一つは家族問題の解決方法で10項目からなっている。評定は、1“全く当てはまる”から4“全く当てはまらない”の4段階評定である。分析の段階で肯定的表現を高得点とするため、回答は逆転して分析している。二つ目は、子どもの前での夫婦の態度に関する質問で12項目から構成されている。回答は1“全くない”から5“非常にたびたびある”の5段階評定で回答するようになっている。三つ目は、夫婦関係に関する質問で、12項目から構成され、1“ほとんどない”から5“非常にたびたびある”の5段階評定で回答するようになっている。その他の質問として、

子どもの前での夫婦喧嘩の割合や、結婚、夫婦関係、夫に対する満足度も聞いている。4) 家事分担役割に関する質問紙は11項目から構成され、1“妻より夫の方が沢山家事をする”から5“妻の方が夫より沢山家事をする”の5段階評定で回答するようになっている。

分析：各質問紙項目の回答を得点として、主成分分析、バリマックス回転で因子を抽出した。各因子内の項目得点を合計して因子得点とし、各質問紙間の関係は、相関分析をおこなった。又、影響度に関しては、重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。

## 結果と考察

### 1. 母親の養育態度と家族の形態

母親の養育態度については、先ず主成分分析、バリマックス回転で3因子(権威的、権威主義的、許容的)を抽出し、次いで、各因子から下位因子を抽出した。第1因子から5因子(体罰、理由なき罰/罰方略、葛藤/権力、指示命令的、しつけ方略)、第2因子からは5因子(温かさ/関係、言語的勇気づけ、気楽なつきあい/愛情表現、論理的/説明的、民主的しつけ方略)、第3因子からは3因子(放任、服従、甘やかし)をそれぞれ抽出した。各因子得点はTable 1に示す。表から最も得点の高い因子は権威的養育態度の下位因子、気楽なつきあい/愛情表現である。この因子は、5項目から構成されており、親が愛情表現をしながら、共に楽しみながら子育てをやり、自分が間違っている時にはきちんとあやまり、子どもが良いことをした時にはほめるといった子育てをしている母親である。次いで4点台で高いのは民主的しつけ方略である。この因子は3項目から構成されているが、主に規則に基づくしつけ方略である。一般に権威的養育態度の得点が高い傾向にある。

家族についても同様に主成分分析、バリマックス回転を行いTable 2に示すように7因子抽出した。表から信頼性係数を見ると、第4因子以下の $\alpha$ 係数が.5以下と低く、信頼性に欠ける。しかし、家族因子との関係については全ての因子について見た。Figure 1には因子得点が示してある。図から、多くの母親が自分の家族は、調和のとれた理想的な家族と思っていることがわかる。Table 3は、養育態度と家族との関係を

Table 1. 母親の養育態度の因子別得点

因子項目 (項目数)		得点 (SD)
第1因子	権威主義的(26)	2.27(.46)
第1因子	体罰(6)	2.23(.74)
第2因子	理由なき罰/罰方略(10)	1.78(.49)
第3因子	葛藤/権力(4)	2.17(.64)
第4因子	指示命令的(3)	3.02(.87)
第5因子	しつけ方略(3)	3.41(.64)
第2因子	権威的(24)	3.76(.46)
第1因子	温かさ/関係(6)	3.40(.65)
第2因子	言語的勇気づけ(5)	3.45(.74)
第3因子	気楽なつきあい/愛情表現(5)	4.29(.62)
第4因子	論理的/説明的(5)	3.66(.70)
第5因子	民主的しつけ方略(3)	4.14(.78)
第3因子	許容的(11)	2.13(.34)
第1因子	放任(3)	1.19(.37)
第2因子	服従(5)	2.31(.53)
第3因子	甘やかし(3)	2.76(.71)

Table 2. 母親から見た家族についての因子分析結果

第1因子		調和的/理想的		Alpha = .91	
No.	M	Loading	項目		
08.	3.2	.78	家族には一体感がある		
05.	3.1	.76	私の家庭は、他の家庭より皆が一緒に調和（平和で幸せ）を保って生活していると思う		
22.	3.1	.73	私たちは、本当にお互いにうまくいっている		
19.	2.6	.66	私の家族は、私がいつも望んでいるとおりの家庭である		
12.	2.6	.65	私たちが一緒にいる時、私の家庭以上に幸せな家庭はないと思う		
09.	3.6	-.65	私の家族は、問題が生じても話し合わない		*
06.	3.3	.64	家族全員が皆それぞれどこにいるかをいつも知っている		
07.	3.2	.63	家族の者は、お互いに離れる事は難しいことを知っている		
15.	2.6	.62	私の家族は、何でも一緒に物事をする		
16.	2.8	.59	家族は、問題が生じると話し合い、たいていその結果に満足する		
11.	2.9	.58	私の家族は、不幸を分かち合う以上のものがある		
26.	3.0	.55	世界中のどの家庭も世の中にうまく順応しているように私の家庭もうまく順応している		
02.	3.2	.55	家族の者は、家庭で、自分の思っている事を自由に言っていると思っている		
37.	3.3	.54	誰もが家族から大事にされていると思っている		
38.	2.9	-.51	家族の課題は、家族全員に十分行き渡っていない		*
01.	3.3	.49	家族はお互いに助け合い、援助しあっている		
27.	3.4	.47	私たちは、必要に応じて、行動をお互いに知らせ合っている		
29.	3.7	-.47	家族は、家にいる時、お互いに接触を避けているように思える		*
第2因子		利己的		Alpha = .62	
20.	1.8	.66	家族のめいめいは、他の者のことは考えないで自分がやりたいと思ったとおりにやる		
18.	1.8	.66	私の家族は、各人の身に起こった事には、ほとんどお互いに影響しないと思っている		
23.	1.7	-.51	私の家庭では、誰もが自分の意見を言うのは重要な事だ		*
21.	1.7	.43	家族は、自由時間の大半を一緒に過ごすのはプレッシャーだと感じている		
第3因子		喧嘩/感情的		Alpha = .67	
03.	2.2	.75	家族でよくケンカする		
10.	1.5	.62	家族の者は、時々怒って物を投げたりする		
31.	2.5	-.59	家族の者は、お互いに非難することはほとんどない		*
17.	2.6	-.58	家族の者は、かっとなることはほとんどない		*
24.	1.8	.58	家族は、時々お互いに叩いたりする		
第4因子		家族ストレス		Alpha = .49	
14.	2.3	.64	家族の者は、家族から離れて自分自身の時間をとるのは難しい		
35.	2.2	.63	家で一人になる場所が全然ないように思う		
30.	1.6	.46	私たちは、家庭で個人的な問題についてお互いに話さない		
28.	1.4	.40	家族の各々が、自分一人で過ごす時間を持ちたいと思うならば、それは罪であると感じる		
第5因子		運		Alpha = .47	
33.	2.1	.71	私の家族は、今よりも幸せになれたかも知れない		
04.	1.7	.62	私たちの決定は、各人の決定ではなく、私たちがコントロールできないものが働いている		
25.	2.1	.52	家族が各人の運命をコントロールしていると強く思っている		
第6因子		独立的		Alpha = .47	
13.	2.3	.70	家族の各々は非常に独立している（自分の事は自分でやる）		
34.	2.7	.67	家族の者は、一般に自分のやりたいようにしている		
第7因子		なりゆきの		Alpha = .31	
32.	2.2	.57	将来起こるたいていの事は運、不運のなりゆきであると分かっているのに、家族はあまり先の計画を立てない		
36.	2.1	-.48	私の家庭は、たいてい皆そろって食事をする		*

\*は逆転項目

第1因子 23.0% 第2因子 6.6% 第3因子 5.9% 第4因子 5.0%  
 第5因子 4.2% 第6因子 3.8% 第7因子 3.6% 計 52.0%

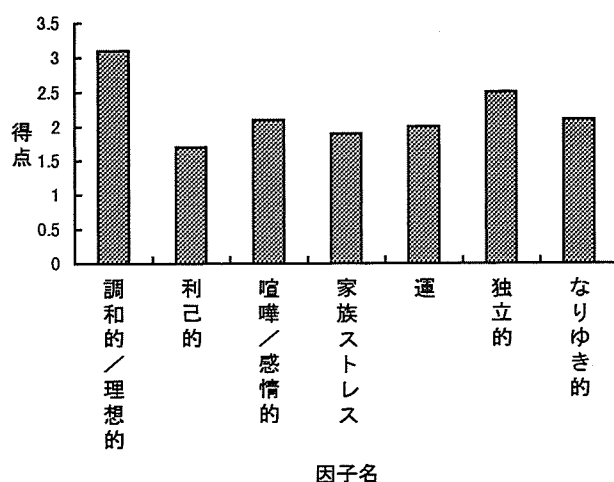


Figure 1. 家族に関する因子得点

Table 3. 母親の養育態度と家族のタイプとの関係

母親の養育態度 因子項目	調和的/ 理想的	利己的	喧嘩/感情的	家族ストレス	運	独立的	なりゆきの
権威主義的	-.23**	.27***	.37***	.27***	.27***		.15*
体罰			.25***		.21**		
理由なき罰/罰方略	-.28***	.33***	.33***	.26***	.26***		.22**
葛藤/権力	-.16*			.20**	.17*	-.16*	
指示命令			.32***	.25***	.18*	-.16*	
しつけ方略	-.15*		.20**			-.19**	
権威的	.29***	-.20**					
温かさ/関係	.23**						
言語的勇気づけ	.21**	-.15*					
気楽なつき合い/愛情表現	.30***	-.23***					
論理的/説明的							
民主的しつけ方略	.20**	-.22**		-.14*			-.15*
許容的				.20**	.16*	.15*	
放任	-.17*						
服従	.22**			.22**			.16*
甘やかし			-.22**				

\*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

示している。この表から、権威主義的養育態度、及びその下位因子と家族の利己的、喧嘩/感情的、家族ストレス、運、成り行き家族と正の相関が認められ調和的/理想的因子と負の相関が認められた。権威的養育態度と家族の調和的/理想的因子と正の相関が認められ、利己的因子と負の相関が認められた。許容的養育態度と家族ストレス、運、独立的因子と正の相関が認められた。結果は3つの養育態度と家族との関係は、それぞれ異なる家族タイプと関係していることを示している。このように多くの変数と相関が認められているが、これらの変数の中で、養育態度に最も影響を与えているのはどの因子か、重回帰分析、ステップワイズ法によって見た。母親の権威的養育態度、権威主義的養育態度、許容的養育態度を従属変数とし、これらの変数と有意な相関が認められた家族の因子を予測変数とし、ステップワイズ法で投入した。その結果はTable 4に示してある。権威主義的養育態度を予測する家族は、喧嘩・感情的因子が最も影響していた。さらに、運、利己的因子も予測変数として有意であった。家族因子はすべてネガティブな因子で、これらの因子を持つ家族は、母親が権威主義的な養育スタイルであることを予測する。権威的養育態度とは、調和的・理想的因子において有意差が認められた。調和のとれた暖かい家庭の母親の養育スタイルは、権威的養育態

Table 4. 母親の養育態度に影響を及ぼす家族タイプ

因子項目	R	Rsquare	$\beta$	F	p
従属変数 権威主義的養育態度					
予測変数 喧嘩/感情的	.36	.13	.357	21.93	***
運	.41	.17	.211	15.34	***
利己的	.46	.21	.195	12.90	***
従属変数 権威的養育態度					
予測変数 調和的/理想的	.29	.09	.292	15.02	***
従属変数 許容的養育態度					
予測変数 家族ストレス	.21	.04	.211	7.72	**

\*p&lt;.05 \*\*p&lt;.01 \*\*\*p&lt;.001

度であることを予測する。さらに、許容的養育態度に対しては、家族ストレス因子において有意差が認められた。即ち、家族の者がお互いにストレスを感じているような家庭は母親の養育態度は許容的である事を予測することができる。このようにどのような家族形態かによって母親の養育態度が予測される。

## 2. 家族と夫婦関係との関連性について

このような家族の中で何か問題が生じた時、どのような解決方法をとるのであろうか。質問 10 項目から主成分分析、バリマックス回転で 3 因子を抽出した。項目のまとまり具合によって、第 1 因子を「徹底的話し合い」、第 2 因子を「問題の増大」、第 3 因子を「終える事を目標」と命名した (Table 5)。因子得点は Figure 2 に示してあるが、解決が満足しなくても、とにかく問題を終わらせようとする方法が最も得点が高く、徹底的話し合いも同じくらいの得点である。しかし、Table 5 を見るとどの項目も殆ど 2 点台であり変わらない。又、子どもの前で夫婦間の問題をどの程度話すかについて調べた。12 項目を因子分析によってまとめた結果、3 因子が抽出され、項目のまとまり具合を考慮して、第 1 因子を言い争い、第 2 因子を愛情表現、第 3 因子を子の八方美人的態度と命名した (Table 6)。第 3 因子は 1 項目から構成されている。因子得点を見ると (Figure 2)、子どもの前で愛情表現することが多いようである。子どもの前ではなるべく夫婦喧嘩は控え、一緒に笑うといった仲むつまじさを示している。このような和やかさは、子どもに家庭の温かさを感じさせる源となるであろうことが推測できる。さらに、夫婦関係について夫の態度についても調査した。12 項目を主成分分析、バリマックス回転によって 3 因子抽出した。項目のまとまり具合から、第 1 因子を回避/

Table 5. 家族問題の解決方法

第 1 因子		徹底的話し合い	Alpha = .83
No.	M	Load.	項目
09.	2.7	.76	私たちは、気を静めて、物事を徹底的に話し合うよう働きかける
02.	2.9	.76	私たちは、お互いの感情を尊重している
03.	2.7	.75	私たちは、解決するまで物事を徹底的に話し合う
06.	2.8	.75	私たちは、お互いにどんなに助け合っているかを分かち合っている
08.	2.8	.73	私たちは、感じている事や言いたい事を、お互いに聞く時間をとっている
04.	2.6	.59	家族の誰もが身体的に、あるいは情緒的に傷つかなかった事を確かめることに一生懸命努力している
第 2 因子		問題の増大	Alpha = .64
01.	2.4	.72	私たちは、お互いに怒鳴ったり、大声で叫んだりする
07.	2.0	.57	ケンカしたり、昔の事を持ち出したりして問題を大きくしている
第 3 因子		終える事を目標	Alpha = .19
05.	2.7	.65	それほど満足しなくても葛藤を乗り越える
10.	2.8	.46	私たちは腹を立てるが、積極的に争いを終わらせようとする

Table 6. 子どもの前での夫婦間の問題表現

第1因子 言い争い		Alpha = .84	
No.	M Load.	項目	
05.	2.0 .78	お子様の前で、ご主人は、あなたの癖について（お酒を飲む、いつもぶつぶつ文句を言う、だらしない等）どのくらい不平を言いますか	
06.	2.4 .77	このお子様の前で、あなたは、ご主人の癖についてご主人にどのくらい不平を言いますか。	
08.	2.1 .75	このお子様の前で、あなたとご主人はどのくらい口げんかをしますか	
04.	2.0 .69	家庭で、あなたとご主人が妻の役割について言い争いをしているのをこのお子様はどのくらい聞いていますか	
07.	1.4 .64	程度の差はあれ、非常に大きなストレスがある場合、私達は抑えられないほどの衝動に駆られるといった経験をします。このお子様の前で、どのくらいあなたとご主人の間で暴力的な行為（殴ったり、叩いたりする）を示しますか	
03.	2.3 .60	あなたとご主人はしつけについて意見が異なる場合、この子どものいる前でどのくらいしつけの問題について言い争いをしますか	
01.	1.8 .55	最近、経済的な事（金銭問題）について特別に時間とか場所をとって話合うのは難しい場合、あなたは、このお子様の前で、お金の事についてご主人とどのくらい言い争いをしますか	
第2因子 愛情表現		Alpha = .77	
10.	2.7 .82	このお子様の前で、あなたとご主人はお互いにどのくらいほめあいますか	
12.	4.1 .77	このお子様の前で、あなたとご主人は何かについて一緒に笑うことがどのくらいありますか	
09.	2.7 .75	このお子様の前で、あなたとご主人はお互いの愛情表現をどのくらいしますか	
11.	3.5 .71	このお子様の前で、あなたとご主人は物事についてどのくらい穏やかに話し合いますか	
第3因子 子の八方美人的態度			
02.	2.5 .87	「子どもが一方の親にお金をねだったり、何かをする許可を求めて断られた後、もう一方の親の方へ言って同じ事を言う。」このようなやり方であなたやご主人に近づくこのお子様についてあなたはどのくらいご主人に言いますか	

無視、第2因子を援助的、第3因子を脅し／非難と命名した (Table 7)。因子得点は Figure 2 に示した。援助的態度の得点が最も高く、夫婦関係も相互に援助しあっている事がわかる。

このような夫婦間の問題解決あるいは、夫婦関係はどのような家族タイプと関係があるのか相関分析を行った。Table 8を見ると、調和的／理想的家族と「徹底的話し合い」「愛情表現」「援助的」因子と正の相関が認められ、「問題の増大」「言い争い」「回避／無視」「脅し／非難」とは負の相関が認められている。結果から、調和的な家族は、家族で問題が生じた時には、徹底的に話し合い、子どもの前では仲の良さを表現

Table 7. 夫婦関係について

第1因子 回避／無視		Alpha = .85	
No.	M Load.	項目	
02.	1.9 .86	あなたとご主人との意見が一致しない時、罰としてどのくらいあなたを避けようとしていますか	
03.	2.0 .81	ご主人が自分の思いどおりに事が運ばなかった時、どのくらいあなたに冷たい態度をとりますか（無視したり、避けたりする）	
01.	2.1 .80	ご主人があなたに腹を立てた時、問題に対処する方法としてあなたをどのくらい無視しますか	
06.	1.9 .78	ご主人は、結果が意見の不一致に終わった時、いつも示していた愛情はどのくらい少なくなりますか	
07.	1.9 .59	ご主人があなたに腹を立てた時、どのくらい性的な関係に影響しますか。	
12.	2.0 .59	ご主人はあなたと意見が一致しなかった時、どのくらいあなたに罪の意識を感じさせますか	
第2因子 援助的		Alpha = .76	
04.	3.2 .81	ご主人は、あなたを理解しているとか、支えているといった態度をどのくらい示しますか	
08.	3.0 .80	ご主人は、愛情をどのくらい示しますか	
10.	3.6 .73	ご主人は、あなたにとって重要な事柄についてどのくらい援助しますか	
第3因子 脅し／非難		Alpha = .58	
09.	1.6 .72	ご主人は、あなたと意見が一致しなかった時、子どもにあなたとは反対の立場（主人の方の場）をとるように勧めますか	
05.	1.3 .68	ご主人があなたに腹を立てた時、あなたと別居だとか離婚などどのくらい言って脅しますか	
11.	1.9 .60	ご主人は、どのくらいあなたを非難しますか	



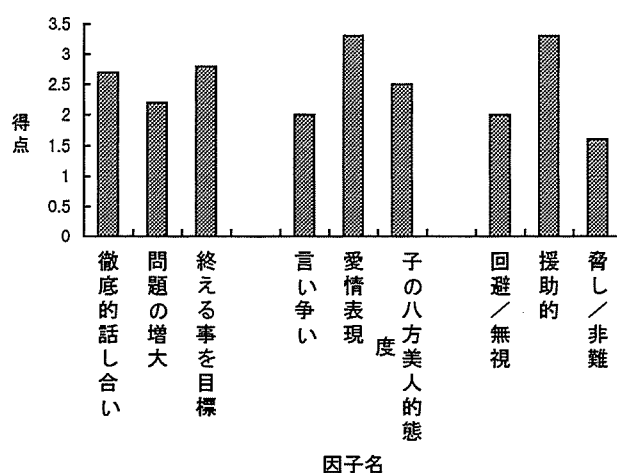


Figure 2. 家族問題及び夫婦関係に関する因子得点

Table 8. 家族のタイプと夫婦問題との関係

因子項目	家族のタイプ					
	調和的/ 理想的	利己的	喧嘩/感情的	家族ストレス	運	独立的 なりゆきの
問題解決方略						
徹底的話し合い	.57***	-.37***		-.31***	-.22**	-.27***
問題の増大	-.20**	.20**	.50***		.31***	.16*
終える事を目標				-.19**		
夫婦間の問題表現						
言い争い	-.29***	.16*	.42***	.21**	.21**	.33***
愛情表現	.60***	-.41***	-.17*	-.25***		-.22**
子の八方美人的態度						
夫婦関係						
回避/無視	-.35***	.19**	.23***	.18*		.14*
援助的	.60***	-.41***	-.22**	-.19**		-.31***
脅し/非難	-.34***	.23***	.38***			.14*

\*p&lt;.05 \*\*p&lt;.01 \*\*\*p&lt;.001

し、お互いに援助しあっているといった関係が見られる。一方、利己的家族は「徹底的話し合い」「子の八方美人的態度」「援助的」因子と負の相関が認められ、「問題の増大」「回避/無視」「脅し/非難」因子と正の相関が認められている。さらに、喧嘩/感情的家族は「問題の増大」「言い争い」「回避/無視」「脅し/非難」因子と正の相関が認められ、「愛情表現」「援助的」因子とは負の相関が認められている。家族ストレス家族は、「徹底的話し合い」「終える事を目標」「愛情表現」「援助的」とは負の相関が認められ、「言い争い」「回避/無視」とは正の相関が認められる。運まかせ家族は、「徹底的話し合い」とは負の相関が認められ、「問題の増大」「言い争い」とは正の相関が認められている。なりゆきの家族は、「徹底的話し合い」「愛情表現」「援助的」因子と負の相関が認められ、「問題の増大」「言い争い」「回避/無視」「脅し/非難」とは正の相関が認められる。このように多くの変数間に相関が認められているが、これらの因子の中でどの因子が有意にそれぞれの家族タイプに影響しているのか重回帰分析を行った。家族のタイプを従属変数とし、各家族タイプと有意に相関が認められた因子をステップワイズ法によって投入したところ、いくつかの変数において有意差が認められた(Table 9)。調和的/理想的家族に影響している変数は、「援助的」「徹底的話し合い」「愛

Table 9. 家族に影響を及ぼす夫婦関係

因子項目	R	Rsquare	$\beta$	F	p
従属変数 調和的/理想的					
予測変数 援助的	.59	.34	.587	85.74	***
徹底的話し合い	.66	.44	.356	64.12	***
愛情表現	.70	.49	.275	50.81	***
回避/無視	.71	.51	-.155	41.25	***
従属変数 利己的					
予測変数 愛情表現	.39	.15	-.389	31.87	***
徹底的話し合い	.45	.20	-.239	22.06	***
従属変数 喧嘩/感情的					
予測変数 問題の増大	.49	.24	.489	58.57	***
言い争い	.55	.30	.275	40.31	***
従属変数 家族ストレス					
予測変数 徹底的話し合い	.31	.10	-.312	18.86	***
回避/無視	.34	.12	.147	11.67	***
従属変数 運					
予測変数 問題の増大	.32	.10	.321	18.91	***
従属変数 なりゆきの					
予測変数 言い争い	.37	.13	.367	27.83	***
徹底的話し合い	.41	.17	-.187	17.87	***

\*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

情表現」がプラスの方向で影響し、「回避/無視」はマイナスの方向で影響していた。利己的の家族に影響していた変数は、「愛情表現」と「徹底的話し合い」変数がマイナスの方向で影響していた。喧嘩/感情的の家族においては、「問題の増大」「言い争い」がマイナスの方向で影響し、家族ストレスについては、「徹底的話し合い」がマイナスの方向で、「回避/無視」がプラスの方向で影響していた。さらに運の家族については、「問題の増大」がプラスの方向に影響し、なりゆきの家族については、「言い争い」がプラスの方向で影響し、「徹底的話し合い」因子がマイナスの影響をしていた。これらの結果は、予測したように、調和的/理想的の家族は、夫婦関係が相互に愛情を表現するなどして援助的で、問題が生じると徹底的に話し合うという関係が見られ肯定的に家族や夫婦関係を捉えている。又、いつも喧嘩が絶えない家族では、夫婦関係は、昔の事などを引き出して言い争い、問題を大きくしてしまうといった関係が見られ、家族や夫婦関係を否定的に捉えている。このように様々な家族形態が見られるが、母親は結婚、夫婦関係、夫に対してどの程度満足しているのだろうか。Figure 3-1~3-3 はそれぞれの満足度を示している。全体的に、多くの母親が結婚、夫婦関係、夫に対して満足していると回答していることがわかる。

### 3. 母親から見た父親の養育態度と家庭での役割分担について

では、多くの母親は結婚、夫婦関係、夫に対して満足していると回答したが、父親の養育態度についてはどのように見ているのだろうか。上記に述べた 62 項目について、母親から見た父親の養育態度と自分の養育態度について評価比較し、そのギャップは T-test で検討した (Table 10)。表を見ると、多くの項目で有

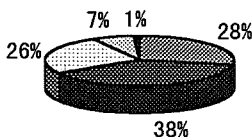


Figure 3-1. 結婚に対する満足度

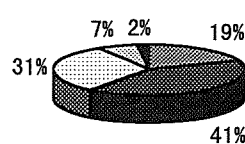


Figure 3-2. 夫婦関係に対する満足度

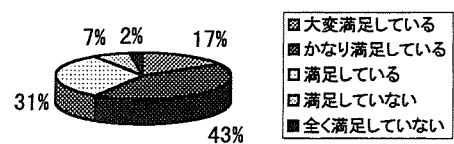


Figure 3-3. 夫に対する満足度

Table 10. 母親から見た父親の養育態度と自分の養育態度の評価比較

項 目	父 親	母 親
01. 子どもに悩んでいる問題があれば、親に話すよう促している	3.40(1.47)	4.24(1.14)***
02. 子どもに理由を説明するより罰を与える方法でしつけている	1.73(.93)	1.75(.82)
03. 子どもの友達の名前を知っている	3.11(1.12)	4.55(.87)***
04. 子どもをしつけるのは難しいと思っている	3.17(1.24)	3.66(1.26)***
05. 子どもが良い子であった時はほめる	4.44(.95)	4.53(.89)
06. 子どもが親に従わない時は、おしりをぶつ	1.90(1.13)	2.32(1.23)***
07. 子どもと一緒に冗談を言ったり、遊んだりする	3.94(1.14)	4.05(.99)
08. 子どもが親の願いとは反対のことをした時でも、叱ったり、非難したりしない	2.78(1.22)	2.70(1.12)
09. 子どもが傷ついたり、イライラしている時、同情を示す	3.28(1.23)	3.53(1.09)***
10. 殆ど説明しないで、ささいな事でも罰として、子どもとして許されるような事でも許さない	1.61(.94)	1.67(.93)
11. 子どもを甘やかしすぎている	2.42(1.10)	2.25(1.02)*
12. 子どもが腹を立てている時、慰めたり、理解している事を示す	3.18(1.18)	3.42(1.13)**
13. 子どもが間違った行動をした時には、大声でどなりちらす	2.41(1.28)	2.94(1.23)***
14. 子どもとは気楽につき合っている	4.33(1.02)	4.12(1.18)**
15. 子どもが他の人に迷惑をかけていてもかまわない	1.13(.51)	1.07(.42)***
16. 子どもが行動を起こす前に、親が子どもに期待していることを話す	1.82(.91)	2.01(.93)***
17. 子どもを良くするために、叱ったり、非難がましいことを言う	2.29(1.15)	2.84(1.22)***
18. 子どもがする事には我慢している	2.14(.98)	2.12(.90)
19. 子どもが親に従わない時には、子どもをつかむ	1.70(.90)	1.95(1.01)***
20. 子どもに罰を与えると言うが、実際にはしない	2.93(1.48)	2.75(1.31)**
21. 子どもの感情や要求に応じている	3.26(1.02)	3.27(.90)
22. 子どもが家族の規則について意見を言う事を認めている	3.68(1.33)	3.76(1.31)*
23. 子どもと言ひ合いをする	2.12(1.07)	2.79(1.25)***
24. 親としての能力には、自信があると思う	2.78(1.23)	2.37(1.19)***
25. 子どもになぜ規則を守らなければいけないかを説明する	3.70(1.33)	4.18(1.07)***
26. 子どもの感情より、自分の感情の方をまず最初に考える	2.17(1.10)	2.32(.89)*
27. 何かをやらうと試みたり、完成させようとする事は、良いことだと子どもに言う	4.25(1.06)	4.46(.89)***
28. 殆ど説明することなく、子どもをどこかに一人置いて仕置きをする	1.18(.56)	1.15(.49)
29. 子どもが自分のやった行動が他の人にどう影響するかを理解してほしいので、子どもに自分の行動の経過について話すよう勧めている	2.91(1.36)	3.33(1.31)***
30. 間違った行動に対する親のしつけは、子どもが親を嫌いになる原因になるのではないかと心配する	1.24(.66)	1.39(.85)***
31. 子どもに何かをするように要求する前に、まず子どもの欲求を考慮する	2.73(1.20)	2.81(1.10)
32. 子どもに自分の怒りをぶつける	1.67(.84)	2.25(.95)***
33. 学校で子どもが持っている問題や心配事に気づいている	2.08(1.04)	3.23(1.10)***
34. 実際に罰する以上に罰を与えると言って脅している	1.63(.91)	1.90(.95)***
35. 子どもを抱いたり、キスしたり、やさしい言葉(良かったねなど)をかけて愛情を示している	3.93(1.18)	4.44(.84)***
36. 子どもの間違った行動を無視する	1.30(.60)	1.14(.37)***
37. 子どもをしつける方法として体罰を利用している	1.60(.71)	1.79(.76)***
38. 子どもが間違った行動をした後で、しつけをしている	3.10(1.33)	3.33(1.36)***
39. 親として間違った事をした時、子どもにあやまる	3.67(1.34)	4.08(1.15)***
40. 子どもに何をしたらいいかを言っている	2.67(1.21)	3.32(1.22)***
41. 子どもが何かで騒ぎを起こした時には、子どもにまかせる	2.33(1.22)	2.14(1.07)**
42. 子どもが間違った行動をした時、子どもと話し合い、理由を聞いたりする	3.84(1.29)	4.42(.90)***
43. 子どもが間違った行動をした時、子どもをびしやりとたたたく	2.07(1.14)	2.52(1.16)***
44. 子どもとは意見が一致しない	2.08(.86)	2.08(.78)
45. 子どもが他の人を邪魔してもかまわない	1.07(.29)	1.06(.27)
46. 子どもと時々一緒に団らんする時を持っている	3.86(1.24)	4.37(.95)***
47. 二人の子どもが喧嘩をしている時、まずしつけをして、その後で問題について聞く	2.51(1.38)	2.79(1.47)***
48. 親と意見が合わない時でも、子どもが自由に自分の意見を述べるよう励ましている	3.25(1.28)	3.47(1.21)**
49. 親に従ったら、褒美を与えるといったやり方をとっている	1.73(.96)	1.67(.87)
50. 子どもの行動が親の期待にそぐわない時、叱ったり、非難したりする	1.75(.95)	1.98(1.00)***
51. 子どもに自分の意見を言うように促し、子どもの意見を尊重している	3.50(1.19)	3.65(1.04)*
52. 子どものためにきちんとした規則を作っている	2.63(1.23)	2.97(1.21)***
53. 子どもの良い行動、悪い行動を親がどんなふうと思っているかを子どもに説明している	2.87(1.31)	3.57(1.24)***
54. ほとんど正当な理由もなく、罰する時には脅しを使う	1.31(.73)	1.36(.69)
55. 家族の計画を立てる時、子どもの好みを考える	3.81(1.22)	3.99(1.11)***
56. 子どもが何故いうことを聞かなければならないかと尋ねたら、親だからとか、そうしてほしいからと答える	2.05(1.15)	2.03(1.19)
57. 子どもの間違った行動をどう解決したらいいのかわからない	1.77(.89)	1.91(.88)**
58. 子どもに、行動の結果がどうなるかを説明している	2.88(1.27)	3.39(1.26)***
59. 子どもにやる事を命ずる	2.46(1.07)	2.86(1.15)***
60. 子どもが間違った行動をしたら、他の人に受け入れられるような行動をするように教えている	2.98(1.30)	3.39(1.31)***
61. 子どもが親に従わない時、子どもを押しつける	1.46(.73)	1.66(.88)***
62. 規則に対してはその理由を強調する	2.91(1.27)	3.15(1.20)***

\*p&lt;.05 \*\*p&lt;.01 \*\*\*p&lt;.001

意差が認められており、殆どの項目では、自分の方を高く評価している。夫の得点が有意に高い項目は、(11)子どもを甘やかしている。(14)子どもとは気楽につきあっている。(15)子どもが他人に迷惑をかけてもかまわない。(20)子どもに罰を与えると言うが、実際にはしない。(24)親としての能力には、自信があると思う。(36)子どもの間違っただ行動を無視する。(41)子どもが何かで騒ぎを起こした時には、子どもにまかせるの7項目である。これらの項目を見ると、母親は父親を、自分より子どもに甘く、やや無責任な父親として見ているが、一方で自分より親としての能力は高いと評価しているのは興味あるところである。

家事について、実際にどの程度父親と役割分担しているのだろうか。Figure 4 は子どもの世話の役割分担である。通常の場合と、休日など夫婦とも家にいる場合で比較している。母親の職業については、専業主婦の割合が88%を占めている為か、通常は母親の方が育児をしている。しかし、休日など両方家にいる場合には、父親もかなり世話をしているようである。どのような世話かはわからないが、子どもと遊んだり、風呂と一緒に入るといった事が多いのかもしれない。Figure 5 は家事の役割分担であるが、やはり通常は妻の方が殆ど行っているが、両方家においても、母親の方が家事を行っていて、父親は殆ど何もしていないことがわかる。Figure 6 は家の周りの世話で、庭の手入れとか家の修理などが含まれるので、通常の場合、母親の方が多い傾向にあるが、両方とも家にいる場合は、父親の方がやや多い傾向にある。他の事柄と比較する

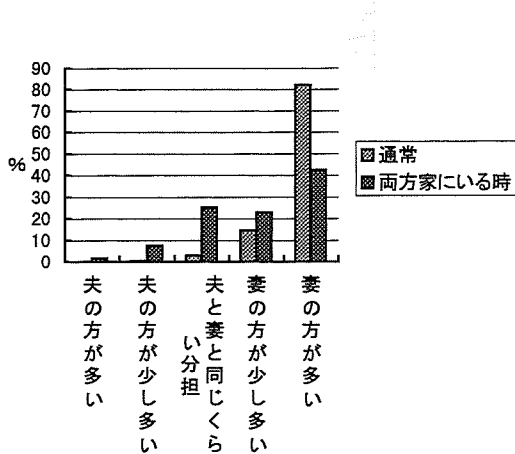


Figure 4. 子どもの世話

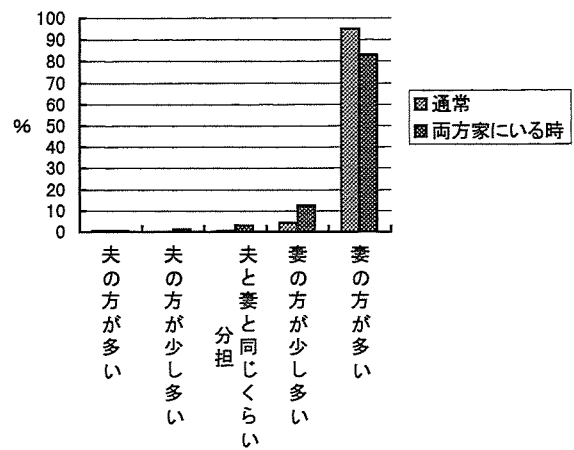


Figure 5. 家事の役割分担

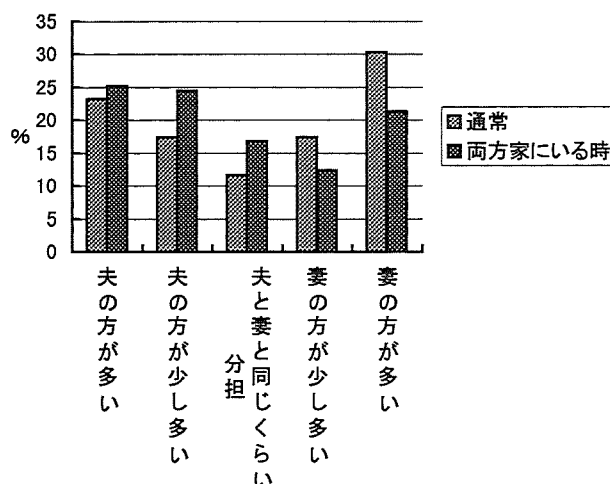


Figure 6. 家の周りの世話

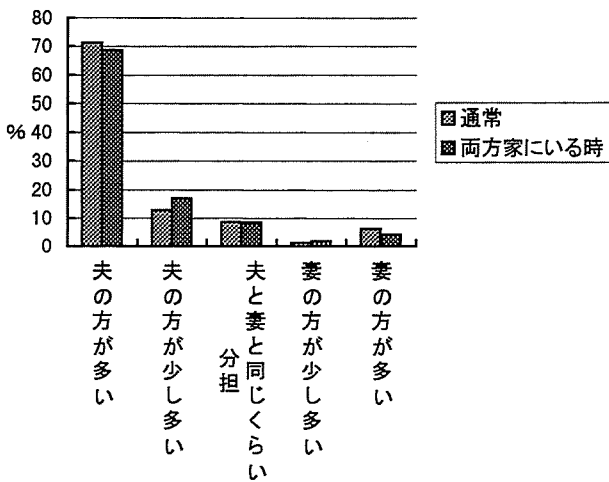


Figure 7. 車の修理及び洗車

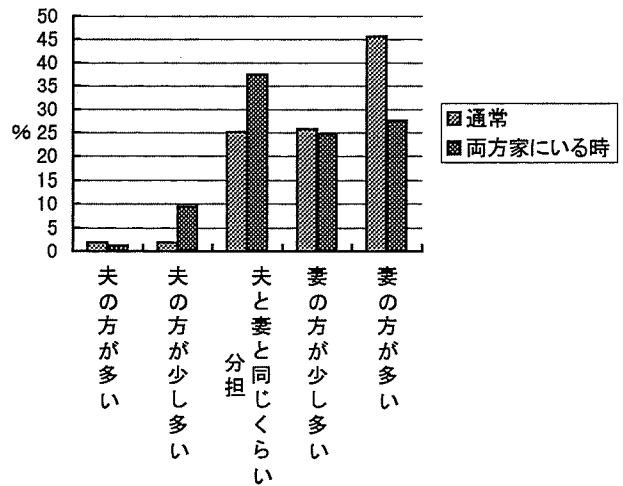


Figure 8. 大人の期待にそぐわない時のしつけ

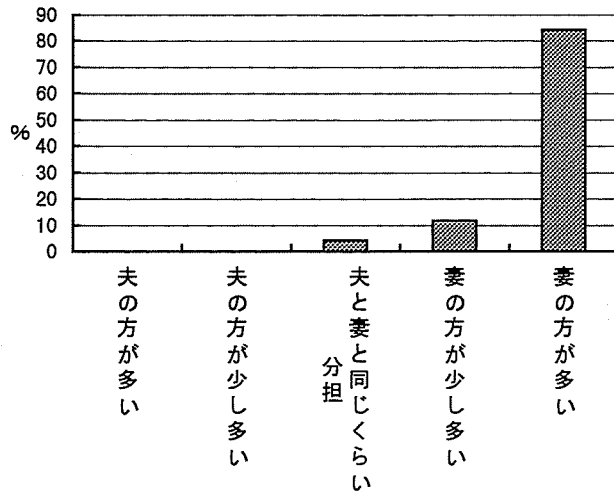


Figure 9. 通常の子どもの健康管理

と夫婦が同じくらい行っている傾向が見られる。Figure 7は車に関する仕事で通常も夫婦とも家にいる時も、夫が車の手入れをしていることがわかる。Figure 8は親の期待にそぐわなかった時の子どものしつけである。通常は母親の方がしつける事が多いが、両方家にいる時は、同じくらい分担する事が多く、夫もしつけについては協力的である。Figure 9は、通常子どもの健康管理を誰がするかという事であるが、やはり妻の方が多い。父親は仕事があるから、時間の都合のつきやすい母親が子どもを医者につれて行ったりしていることになる。このようにして見ると、家事の役割分担については、父親と母親の役割が大体分かれている。しかし、通常は、子どもの世話や家事等で母親は多くの時間を費やしていることがわかる。このような日常の行動と養育態度との関係は今後の検討課題である。

## 結 語

母親の養育態度を決定する要因として家族や夫婦関係を考えその関係を明らかにしてきた。権威的(統制：高，反応/温かさ：高)養育態度を示す母親は、家族を調和のとれた理想的家族として見ており、夫婦関係もお互いに援助的であるとしている。一方、権威主義的(統制：高，反応/温かさ：低)養育態度を示す母

親は、家族を喧嘩／感情的家族、利己主義的家族、ストレスのある家族として見ている。このような家族の夫婦関係は、夫婦喧嘩が多く、子どもの前で言い争いをする事が多い。全体的に見て、多くの母親は、結婚、夫婦関係、夫に対しては満足しているようである。又、父親の養育態度についての評価から、母親は父親を子どもに対して甘く、やや無責任なところがある父親として評価している一方で、親としての能力を自分より高く評価している。家事等の分担に関しては、通常、家事とか子どもの世話や健康管理は母親が行っており、車の世話は父親が行っている。しかし、夫婦とも家にいる時には、子どもの世話については、父親が協力的になるが家事は殆ど行っていない。このような夫婦間の家事分担は、又、子どもの社会的行動にも影響を与えると考えられるが、本研究では明らかにしていない。本研究は母親の養育態度に影響する要因として家族、夫婦関係の実体と相互の関係を明らかにしたが、家族や夫婦関係と子どもの社会的行動との関係を明らかにするのは今後の課題である。

### 引用文献

- Baumrind, D. (1966). Effects of authoritative parental control on child behavior. *Child Development*, 37, 888-907.
- Baumrind, D. (1991). Effective parenting during the early adolescent transition In P. A. Cwoawan & M. Hetherington (Eds.), Hillsdale NJ: Erlbaum.
- Belsky, J. (1984). The determinants of parenting: A process model. *Child Development*, 55, 83-96.
- Bloom, B., & Naar, S. (1994). Self-report measures of family functioning: Extensions of a factorial analysis. *Family Process*, 33, 203-216.
- Bryant, B. K., & DeMorris, K. A. (1992). Beyond parent-child relationships. In R. D. Parke, & G. W. Ladd (Eds.), *Family-Peer Relationships: Modes of linkage*. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Hart, C., Olsen, S. F., Robinson, C. C. & Mandleco, B. L. (In Press). The development of social and communicative competence in childhood. In B. R. Burleson (Ed.), *Communication Yearbook 20*. International Communication Association, Sage.
- Hetherington M., Cox, M., & Cox, R. (1978). The aftermath of divorce. In J. H. Stevens, Jr. & M. Mathews (Eds.), *Mother-child father-child relationship* (pp.398-439). Washington, DC: National Associations for the Education of Young Children
- Katz, L. F., & Gottman, J. M. (1993). Patterns of marital conflict predict children's internalizing and externalizing behaviors. *Developmental Psychology*, 29, 940-950.
- Parke, R. D. & Ladd, G. W. (1992). *Family-Peer Relationships*. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Porter, B., & O'Leary, K. D. (1980). Marital discord and childhood behavior problems, *Journal of Abnormal Child Psychology*, 8, 287-295.
- Smets, A. C., & Hartup, W. W. (1988). Systems and symptoms: Family cohesion/adaptability and childhood behavior problems. *Journal of Abnormal Child Psychology*, 16, 232-246.
- 戸田須恵子 (1998). 母親の養育スタイルと子どもの攻撃的行動に関する研究. 北海道教育大学紀要, 第一部 C, 49-62.
- Toda, S. (1999). The study of mothers' parenting practices, child withdrawn behavior and temperament. *Research and clinical center for child development, Annual Report of Hokkaido University*, 21. 1-15.
- 山根常男 (1986). 家族と人格. 家政教育社

(本学教授 釧路校)